

## つれてげ地藏

1

むがし、大沢の山の中に茂作ってゆつてな、それは貧乏な百姓が住んでたと。

茂作は、大沢の長者様の言いつげで、中山の長者様に塩を届けることになったと。茂作は、馬っ子に塩乗っけつとよ、山と谷を三つずつ越え、川も三つ渡つて、やつどの思いで中山さ着いたんだ。中山の長者様に塩六俵届けつとな、そのかわりに、大沢ではできねえ米六俵もらつて、馬っ子につけて帰ろうとしたんだ。その頃には日も暮れて、あたりは薄暗くなつてきた。

茂作が急ぎ足で、馬っ子引いてつとな、

「おめえは、どっから来た、どっから来たんだ」

つてゆう声でしたと。茂作は、びつくりこいちゃつてな、馬っ子の口輪ぎつちりつかんで、きよろきよろ見まわした。ふんだけつど、土手んどこに小っちゃお地藏さんがいるだけで、他にはだれもいなかったと。

「おがしいなあ。たしかに、聞こえたげつとな。こりゃあ、おきつね様にだまされたがな」

そう思いながら、馬っ子引いて歩き出そうとすつとな、

「おめえはどっから来た、どっから来たんだ」

つてゆう声が、また聞こえた。茂作は、

「おっおっおらあ、おおさわだ。おおお、おおさわがら来たんだ」

つて言いながら、馬っ子の首ぎつちり押さえて、ふるえ出したと。そしたらな、

「おれをつれてげえ、おれをつれてげえ」

つて、お地藏さんが、口をきいた。茂作は、たあまげつちつて、尻もちついちゃつたんだつて。おっかなびつくり、お地藏さんの方を見たら、気がついたと。

「なあんだ。大沢の萩の草のお地藏様じゃねえのげ。おどがさねえでくだせえよ。……」

あーあ、びつくりしたあ。おらが大沢まで乗せてつてあげますから、安心してくだせえ」

茂作は、よっこらしよつて立ち上がつと、お地藏さんを大事そうにかがえて、馬っ子にそうつと、乗せてやつたと。

お地藏さんといっしょに川を渡り、谷と山を越え、やつとご大沢さ戻つた茂作はな、

すぐにお地藏さんを、萩の草のお堂に祀<sup>ま</sup>ってあげたんだって。お地藏さんは、すーごくうれしそうだったと。

そんなことがあってがらな、茂作はだんだん福しぐなって、しまいには、山三つ、谷三つ、川三つもった大金もちになっちゃったと。

この話はな、大沢に萩の草ってゆうバスの停留所があんだげっと、そこの停留所あたりで、昔っから伝わってる話なんだ。

そんなおはなし

おしまい